（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

熊本県立八代工業高等学校定時制　令和２年度（２０２０年度）学校評価計画表

１ 学校教育目標

本校の校訓「誠実」を基柱とし、教育庁の令和２年度（2020 年度）「教育指導の重点」並びに「取組の方向」に則り、家庭、地域、学校が連携・協力により、生徒の「夢実現」に向けた教育活動を推進・充実し、生徒の「生きる力」を育成する。

〇基礎学力と基本的生活習慣の充実・定着
〇地域に愛され、地域とともにある学校づくり
〇キャリア教育の推進と自己実現
〇常により良いものへと向かう姿勢の育成　NEXT　ONE

２ 本年度の重点目標

（１）基本的生活習慣の確立と豊かな人間形成の醸成（２）基礎・基本を重視した学力の定着と向上
（３）人間形成の場としての体育・文化活動の充実　（４）キャリア教育の充実と自己実現
（５）安全教育・健康教育、危機管理の充実　（６）校務整理と業務改善

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	「働きながら学べる学校」の推進 教職員の資質向上 業務改善	・多様な生徒の実態に即した指導	・きめ細かな生徒の実態把握と個別指導の充実	・毎月の生徒情報交換会 ・生徒面談の重視状況に応じ、各教育機関との迅速な連携による対応	B	・毎月の生徒情報交換会により、ＳＳＷと各教育機関との迅速な連携がとれ、生徒の出席率が向上し長期欠席者が０である。 ・問題事案に発展する前に未然に防止することができた。
		・校内研修の充実	・分掌部の組織的・機動的取組の再構築	・分掌部会の開催と計画的な研修の実施	B	・分掌部会は計画的に実施したが、校内研修は休校による変更や中止のため成果を上げることが出来なかった。
		・校務の効率化	・分掌部間の協力・協働体制の構築	・分掌部間で情報共有した課外の実施 ・講演の日程調整によるＬＨＲの時間確保	A	・進路指導部と教務部の連携で課外の準備の効率化や成果が上がった。 ・担任裁量のＬＨＲの時間確保による校務の効率化と個別指導が充実した。 ・超過勤務時間の平均が 10 時間 52 分（昨年度 16 時間 25 分）と減少した。
学力向上	学校生活への意欲向上	・出席率の向上	・生徒の年間出席率８５%以上	・毎月の情報交換会で、生徒の学校生活や家庭環境の状況を全職員で共有 ・生徒へ授業計画や行事予定表を掲示	A	・情報交換会での把握を実施し、担任を中心に欠席の多い生徒に対する対応を行った。 ・生徒ロッカーの横に授業予定を掲示した。 ・全体の出席率は、休学者を除くと95.4%(1年95.2%,2年96.9%3年95.0%,4年95.4%)であった（12/11現在）(昨年度93.5%)
	学習への意欲向上	・授業の充実	・わかる授業の実践 ・授業時数の確保 ・基礎学力の把握	・生徒による授業評価や全職員による研究授業を実施 ・行事予定をもとに、授業の偏りなく調整し、授業の予定時数を全職員へ周知 ・新入生考査やベーシックタイム	B	・授業評価は1学期、2学期に１回ずつ行い、研究授業は参観者のアドバイスを全体で共有できるようにした（12/11現在 11人中10人実施）。 ・授業数の偏りがないように曜日調整し、最大差は4日分であった。授業予定時数は各学期ごとに全職員へ周知した。 ・新入生考査とベーシックタイムテストは、正答誤答を細かく分

				確認テストの結果を分析し、全職員の共通理解		析した結果を全職員で共通理解する機会を設け、学習指導や支援に活かした。
		・基礎学力の定着	・ベーシックタイム実施 ・夏期課外授業の実施	・国語、数学、英語の課題を２か月程度取り組み課題をもとにしたテストを実施 ・夏季休業中に、教務部・進路指導部と連携し、課外を実施	B	・課題に取り組む時間を2か月計30回以上設けた。休学者を除く25人中7人が全問に取り組み、12人が20回以上取り組んだ。 ・課外の事前テスト問題を教務で作成し、進路指導部の計画に基づき課外を行った。
キャリア教育・進路指導	進路保障と進路先開拓	・生徒の実態を踏まえた進路決定	・就職希望者の適性を踏まえた就職内定 ・就労体験の実施と職業観の育成	・ハローワーク、障害者就業・生活支援センター等関係機関との連携強化 ・就労体験などをとおして生徒の適性を把握 ・企業見学の実施 ・進路報告会の実施	B	・担任を中心に繰り返し面談を実施し、本人の希望と適性を踏まえた進路を考えることができた。 ・コロナ禍で企業見学は実施出来なかったが、ハローワーク等関係機関と連携をとり、生徒の進路を考えることができ、就労体験、進路報告会も実施できた。
		・進学希望者の進路支援	・４年制大学等受験のための準備	・課外、模擬試験実施など進学学習指導の充実	B	・週に２回を原則とした４年制大学受験を意識した課外を実施し錬成することができた。
生徒指導	自己管理能力の育成	・規範意識の向上	・遅刻の減少（昨年度３割減） ・ＳＮＳ等の正しい使用方法の定着 ・交通事故と特別指導の未然防止	・毎月３日間の登校指導、挨拶運動の実施 ・生徒指導だよりによる啓発 ・各種講演会の実施	B	・遅刻者について３割減は達成できなかったが、昨年度よりも減少した。（同時期比-25件） ・毎月の生徒指導だよりや講演会を通してSNSの使用方法について啓発を行った。個人情報を掲載している生徒もいるため引き続き指導が必要である ・交通事故が2件発生した。昨年度の5件より減少したが、引き続き交通事故0を目指し、指導を行う
	豊かな人間形成	・コミュニケーション能力の向上	・自ら積極的に挨拶することができる。 ・お互いに共感し、理解し合うことができる。	・毎月３日間の登校指導、挨拶運動の実施 ・年２回のＳＳＴの実施	B	・登校指導を通して、挨拶を返してくれる生徒が多くなった。 ３修制が増えてきている現状から、挨拶運動の時間帯の生徒の登校数が少なくなっているため今後検討が必要である。 ・２回目のSSTはスクールカウンセラーの先生により専門的な立場から講話をいただいた。生徒のソーシャルスキルを高める一助になっている。
人権教育の推進	人権教育推進体制の確立	・教職員の実践力向上	・全職員に対する研修の充実	・通常の研修に加え、人権の視点に立った授業の工夫 ・人権レポートの作成とそれを使った研修	B	・人権を意識した授業の工夫が見られた。 ・人権レポートを全員に作成してもらったが、その後の研修に活かすことができなかった。
	人権意識向上	・人権教育内容の精選	・３・４年間を見通した人権教育計画	・従来の人権問題に加え、新たな人権問題への積極的な取組	B	・各担任に３，４年間を見通した人権教育をスタートすることができた。 ・今年度はコロナ差別講演を多く実施した。

	命を大切にする心を育む指導	・自他の命を大切にする心の育成	・仲間づくりの推進 ・自己肯定感や自尊感情の向上	・授業、各種ワークショップ、コミュニケーション能力向上のため講演会等の実施 ・授業においてできた、わかったという経験を持たせる工夫	B	・今年度はコロナのために行事が十分に行うことができなかった。来年でに向けた課題である。 ・各教科で分かる授業の工夫が見られた。
いじめの防止等	いじめの防止等	・いじめについての認識と理解	・自他の人格を尊重する態度の育成 ・心の通う人間関係を構築する態度を養う ・いじめゼロ	・安心して生活できる集団生活のルールの確立 ・ＳＳＴ・情報安全教育・人権教育の実施 ・あらゆる機会をとらえいじめについて考える場面の設定	A	・今年度いじめの認知件数は0件であった。 ・年間３回の人権教育や講話、全て授業等あらゆる教育活動の中で、自他を尊重する態度について指導を行うことができた。
	いじめの実態把握	・いじめの認知 ・早期発見、解決に向けた取組	・いじめの早期発見と対応 ・いじめの解決 ・いじめに対する学校と家庭の連携協力	・学期ごとのアンケートを実施と検証 ・全職員での情報共有 ・面談週間の実施 ・いじめ防止等対策委員会の開催 ・いじめ匿名通報アプリの導入	A	・学期毎にアンケートを行った結果をまとめ、全職員で共通理解を持つことで、生徒のわずかな変化にも気づくことができるようになっている。 ・いじめ匿名通報アプリからの通報も0件であった。
地域連携（コミュニティスクール）	学校・保護者・地域・各種行政機関との連携	・防災型コミュニティ・スクールとしての連携 ・安全管理と安心できる環境作り	・全日制と協力した避難所運営マニュアルの関係者への周知 ・避難訓練・防災意識の高揚	・地域と連携した防災避難の改善や防災に関する教育活動の実施 ・生徒や保護者への連絡の徹底 ・地域の就労先との連携 ・安全安心メールを使った連絡体制の強化 ・適時の防災教育の実践	B	・今年度はコロナや豪雨災害があり、安全安心メールを使った連絡体制の強化を図ることができた。 ・豪雨災害に見舞われ、生徒自らの問題として捉えることができた。 ・防災教育を複数回実施することができた。
	開かれた学校作り	・定時制高校の魅力発信	・公開授業をとおして生徒の真摯な姿勢を伝える。 ・学校ホームページによる定時制の魅力発信	・くまもと教育の日における公開授業の充実 ・オープンキャンパスにおける教育相談の充実 ・学校ホームページの掲載内容を見直し、更新数を増やす	B	・コロナウイルス感染防止対策の上、公開授業やオープンキャンパスを実施し、中学生及び保護者の方々へ丁寧な御案内と本校の魅力をアピールできた。 ・学校ホームページ更新数を増やせ、魅力発信できた。
健康教育	基本的生活習慣の育成	・基本的生活習慣を啓発	・マスクの着用、手洗いうがい、偏食のない食生活を送り、６時間以上の睡眠を促し免疫力を高める	・日常の生活状況を日々の健康観察や内科検診時の問診票で把握 ・食育を通じて、自己管理能力の育成	B	・新型コロナ感染症の防止のため、日々の健康観察や、欠席した生徒の症状確認に厳密に取り組むことができた。 ・食育の調理実習は、新型コロナ感染症の予防のため中止した。

学校行事等の充実	学校行事の活性化	・生徒の主体的な活動を促進	・学校行事の満足度を５段階中４以上 ・生徒の自己肯定感や自律心の育成	・体育大会やＳＳＴ（スクールソーシャルトレーニング）で、コミュニケーション能力を向上させて、LHR等で振り返る時間の設置	Ａ	・生徒会会長・副会長による生徒会主導の体育大会やＳＳＴを行った。また、その振り返りをＬＨＲで振り返った。
		・ＰＴＡと連携した行事の取組	・ＰＴＡ共催行事の充実 ・学校行事への保護者の参加率の向上	・感染予防対策を踏まえた校外体験学習の立案 ・ＰＴＡ保護者の交流と協力依頼	Ｂ	・校外体験学習は感染防止のため中止となった。 ・ＰＴＡには豚汁会の代替として「保護者からの贈り物」を実施した。
	生徒会行事と部活動	・生徒会活動の充実（定通文化大会を含む）	・生徒会活動の活性化による、学校行事の充実 ・自ら進んで参加する意欲的な生徒の育成 ・クラスマッ	・生徒会執行部のリーダーシップの育成と積極的に取り組める体制の構築 ・生徒一人ひとりが活躍できる学校行事の企画・運営	Ａ	・生徒会執行部は、一人も欠席なく生徒会主催の行事をやり遂げた。コロナ禍で自粛する行事（定通文化大会）もあったが、その他の行事全般には積極的に活動した。
		・部活動の充実	・部活動の活性化	・活動しやすい環境の整備（用具等） ・通年の活動ができる指導・助言	Ｂ	・新型コロナウイルス感染予防に努めながら、通年の活動を行うことができた。

４ 学校関係者評価

（１）昼夜を問わず生徒の人格形成、自己実現への道を切り拓き後押しされている学校長をはじめ教職員の献身的かつ教育者としての矜持に対して敬意を表する。

（２）生徒の様々なニーズに対して、教職員一人一人が寄り添い、きめ細やかな指導の成果が、出席率の向上、遅刻者の減少、いじめ認知件数０に現れている。

（３）公開授業では、落ち着いた雰囲気で授業が行われており、先生方の熱意も感じられた。授業で用いられた教材も良く研究されていた。また、不登校経験や学び直しの生徒が「ここで学びたい」と真剣な表情で授業に取り組む姿勢が印象的であった。

（４）コロナ禍で仕事や収入が減り不安な生徒へ寄り添ってケアーをして欲しい。また、ＰＴＡとしても支援に取り組みたい。

（５）本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため相次いで学校行事が中止となったが、次年度は新型コロナウイルスと向き合いながらの学校行事の実施を望む。

５ 総合評価

総括的に見て、本年度の学校目標は概ね達成された。

（１）設定目標２２項目のうち昨年度よりＡ評価が２つ増え、Ａ評価からＢ評価へ下げた項目が１つであった。本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため休校、学校行事の中止はあったものの、少人数という定時制の特徴が授業活動に大きな影響を受けなかった。

（２）本年度から評価項目に加えた「業務改善」は、校務分掌間の連携強化による業務の効率化ＬＨＲの担任裁量の時間確保等に取り組んだ。超過勤務の月平均が10時間52分と昨年度より５時間33分減少したのでＡ評価とした。

（３）成果が現れた「いじめ防止等」の項目では、いじめを認知件数が０件（昨年度１件）であったので、昨年度のＡ評価からＢ評価にした。心のアンケートの他に学校独自のアンケートを実施したり、生徒会によるＳＳＴやＳＣによる講演、弁護士を招聘した「いじめ予防」の職員研修等の取組の成果が出ている。

（４）評価項目の「学校行事等の充実」の「部活動の充実」は生徒・職員の学校アンケートの結

果でも昨年度より「十分達成」の回答率が減少しており、休校、大会の中止により活動日数が減少したことから、Ａ評価からＢ評価へ下げた。

６ 次年度への課題・改善方策

各項目の課題を再整理して、課題の要因を明確にして学校全体で組織的に取り組む。

（１）学校への出席率は向上しているが、家庭学習の習慣及び基礎学力の定着が課題である。個別面談による学業と仕事の両立の精神的支援、基礎学力診断テストの結果を活かした授業や個別指導で基礎学力を補う取り組みを行う。

（２）昨年度は新型コロナウイルス感染症対策による学校行事の中止や延期が相次いだ。本年度も感染防止を考慮した学校行事の実施、働き方改革を考慮した学校行事の精選に取り組む。

（３）生徒の特性や多様なニーズに応じた進路保障の充実が課題である。学校の実情に応じた進路講話の実施、就業未経験者へのインターンシップの実施、保護者、ＳＳＷやジョブサポートとの連携による就職支援に取り組む。